

九州ルーテル学院大学

2025年度一般Ⅱ期選抜試験問題（試作）

総合問題（国語）

2025年3月実施

次の文章を読んで、後の問に答えて下さい。

「理解と共感の上に人間関係を築く」、これが現代日本の「常識」です。だから、みんな必死になって、他人に共感しよう、他人を理解しようと努めている。努力することは別に悪いことじゃないですよ。でも、理解や共感に過剰な価値を賦与すべきではないと僕は思います。

だって、この世のほとんどの人間について、僕たちは理解も共感もできないんです。

それにもかかわらず、人間関係は理解と共感の上に基礎づけられるべきだとい
う **A** だけは蔓延まんえんしている。変な話です。そんな奇妙な **A** が蔓延して
いるせいで、「周りの人が理解できない、共感できない自分は『変』だ」という
低い自己評価を持つ人が増えてきている。

「コミュ障」という言葉を学生たちが頻用するのを知って、いったいどういう意味だろうと思って訊いてみたら、そういうことでした。自分は、周りの学生たちのように、ことあるごとに激しく頷うなずきあつたり、ハイタッチしたり、「そうそうそうそう」とびよんぴよん跳びはねたりすることができない。自分はコミュニケーションシオン能力に障害があるのかもしれない。そう自己aシンダンシしている。

たしかに、あらゆるトピックについて、そのつどハイタッチしたり、びよんぴよんしたりするのが「ふつう」なら、それができないほうが「おかしい」ことになる。でも、逆でしょうか？ あらゆる話題ですべて同意が成立する人間関係なんてあるわけない。はげしく頷きあっている学生たちだって「理解と共感が成立している演技」を必死でしているだけです。そんな演技を四六時中やっていたら、疲れるし、無理して続けていけば、いずれ精神的に壊れてくる。

「理解と共感ごっこ」は、そのゲームに参加できない人間を傷つけ、参加している人間をも傷つける。だから、そんなばかばかしいことは止めたほうがいいよということに僕は若い人たちにも言ってきました。「いいじゃないですか、「あな
たの考えていることがよくわからない」で、そこで終わるわけじゃないんですか

ら。「あなたの考えていることがよくわからない」に続く言葉は「だから、もっと話を聞かせてください」でしょ？ 「あなたのことがもっと知りたい」でしょ？
それがほんとうに親しい人間関係を創り上げてゆくときのキーワードじゃないですか。人を好きになるときって、そういうものです。知り合つてすぐに「あなたのことは全部わかった」と言われたので、恋に落ちた……というようなことは絶対にありません。「あなたという人のことがよくわかったわ」というのは恋の始まりではなく恋の終わりのときに口に出る言葉です。わからない、わからないからもっと知りたい、でも、たぶん完全に知るといふことはないだろう……というのが人間関係の基本です。そこから始まって、そのまま続いてゆく。

でも、日本人はなぜか **B** をもへんアイする。だから、「理解しているふり・共感しているふり」が集団的に強いられるということが起きる。その結果、周りの人間が何を考えているのかわからないけれど、「わかったようなふりをする」技術ばかりにみんな熟達してゆく。

でも、「ふりをしている」だけです。自分をほんとうに理解し、共感している人間は周りには一人もいない。いたら困る。まことに気持ちの悪いことですが、腹の中ではお互いに「自分のことをこいつらはまるでわかっていない」と思いながら、肩を抱き合い、ホホを寄せ合つて、「オレたち理解し合っているよね」と笑っている。

ほんとうに理解し合うことよりも、場の親密性が優先されている。横にいる人が何を考えているのか、これから何をやる気なのかということは一切吟味しないで、外見的に「親密であるふり」だけ繕おうとする。そういうことはあまりしないほうがいいんじゃないかと思えます。日本の家庭はわりとそういう感じですが、それはよくないと僕は思う。過剰に親密さを「ゴジシゴしないほうが家族は穏やかに暮らせるんじゃないかと思えます。

だって、家族というのは一過的な集団に過ぎないからです。全メンバーが揃そろつて暮らすのは、せいぜい二十年かそこらです。だったら、その間だけとりあえ

